

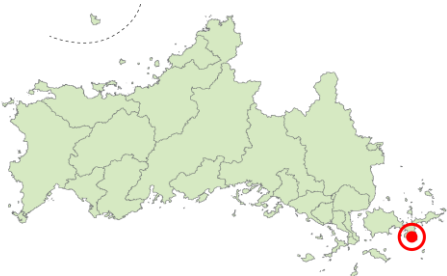
日本最大級のニホンアワサンゴの保全

東和アワサンゴ保全グループ

東和地区について

東和地区は、山口県東南部に位置する屋代島（周防大島町）にあり、島の中央～東部に位置する。

屋代島は、瀬戸内海の中で3番目に面積が大きい島である。島の産業は、ミカンをはじめとする農業、タコやメバル、イワシ、アワビ、サザエなどをはじめとする漁業、豊かな自然を活かした観光業である。また、日本最大級のニホンアワサンゴの群生地として、全国的に知られている。



ニホンアワサンゴの現状

ニホンアワサンゴは、ミドリイシなどイシサンゴ目に属し、岩礁域の岩などに生息する。温帯域に生息するサンゴで、千葉県～種子島の太平洋岸、山口・島根・長崎県沖の日本海側、瀬戸内海では屋代島や愛媛県伊方町沿岸に分布する。

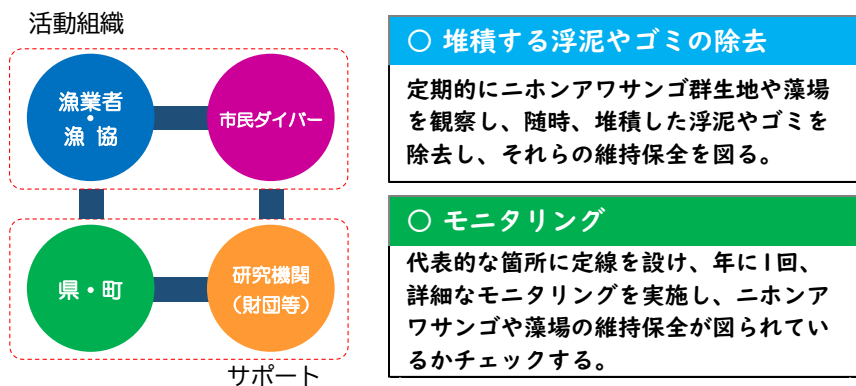
当地区のニホンアワサンゴの群生地は、伊予灘側にある地家室地先にある。素潜り漁を行う漁業者によると、約30年前には生息していたと考えられているが、ニホンアワサンゴとしての発見は約20年前になる。

発見当時、本種の研究はあまり進んでおらず、生物・生態学的な見地から、その保全が課題となった。また、本種の群生地には、クロメやノコギリモク、アマモなどの豊かな藻場も形成されており、ニホンアワサンゴの群生地を含めた優れた海中景観・生物多様性の保全が求められた。



組織の設立と活動の目的

上記課題の中、平成25年1月に自治体や漁業者、民間団体で構成した「周防大島アワサンゴ協議会」が設立。また、群生地を含む56.4haの海域が「海域公園」として環境省に指定され、これら環境の保全への機運が高まった。そして、平成25年度に、漁業者とNPO等に所属する市民ダイバーを中心としたメンバーで「東和アワサンゴ保全グループ」を結成し、ニホンアワサンゴや藻場の保全を展開することになった。



ニホンアワサンゴや周辺藻場の保全

(1) 堆積する浮泥やゴミの除去

浮泥やゴミの堆積は、ニホンアワサンゴや海藻類の生残に悪影響を及ぼす。そこで、ニホンアワサンゴ群生地や藻場の主要区域10箇所ですクーバ潜水し、それらの育成状況を観察し、随時、堆積した浮泥やゴミを除去する。

活動は、浮泥やゴミの堆積が多い時期6～10月にかけて、月に1回（1回1～4日を要す）実施する。

浮泥の除去は、それが多く堆積した場所があれば、随時、徒手でパタパタ払いのけ実施する。また、観察場所で見つけた海底ゴミは、全て回収し、船にあげ、適正に処分する。



(2) モニタリング

活動区域の典型的な、もしくは特徴的な植生（サンゴ含む）分布を示す5箇所に定線を設け、年に1回、同じ場所で詳細なモニタリングを実施する。モニタリングは、毎年10月に実施し、藻場などの環境調査を生業とする当組織の構成員が行うようにしている。

モニタリングの方法は、ベルトトランセクト法を用いて、①サンゴや海藻の被度、②動物の被度・個体数、③底質の外観、④浮泥の被度・堆積厚などを計測・記録する。

調査項目	調査箇所	調査項目	調査箇所	調査項目	調査箇所	調査項目	調査箇所
サンゴの被度	10.0	サンゴの被度	10.0	サンゴの被度	10.0	サンゴの被度	10.0
海藻の被度	10.0	海藻の被度	10.0	海藻の被度	10.0	海藻の被度	10.0
底質の外観	10.0	底質の外観	10.0	底質の外観	10.0	底質の外観	10.0
浮泥の被度	10.0	浮泥の被度	10.0	浮泥の被度	10.0	浮泥の被度	10.0
動物の被度	10.0	動物の被度	10.0	動物の被度	10.0	動物の被度	10.0
個体数	10.0	個体数	10.0	個体数	10.0	個体数	10.0
堆積厚	10.0	堆積厚	10.0	堆積厚	10.0	堆積厚	10.0

活動の効果と課題

平成29～令和元年のニホンアワサンゴの平均被度は、23～31%の範囲で推移。大型褐藻類（ホンダワラ類やクロメ）の平均被度は、43～53%の範囲で推移した。被度の増減は、両者にやや認められるものの、その変動は小さく、サンゴ及び藻場ともに維持保全されていると評価できた。

しかし、令和2年10月上旬に、例年にないニホンアワサンゴの大量斃死が確認された。また、今秋も、別の場所で大量斃死が認められた。

大量斃死が起きた海域では、今冬、生残した親サンゴや新たに着生した稚サンゴが順調に生育しており、一定の回復が期待される。ただし、本種の成熟は3～4年を要することから、大量斃死の原因究明を検討しながら、今後も活動を継続していきたいと考える。

